

視点3 『学級集団づくり』

(1) 表出意欲を高め理解を促す

(ア) 各自で考えをまとめ、ペアやグループで共有するなど、発表しやすくし、また思考を深めやすくする

【学級の様子】

- ・みんなの前で自信をもって発表することができない
- ・自分の考えだけで、思考を深められない子どもがいる



【工夫のポイント】

◎発表しやすい環境の工夫

*ペアやグループで話し合うことにより、自信をもって発表しやすくする

◎思考を深めやすい場の設定

*班で話し合うことにより、思考を深めやすくする



「ノートを読み合うだけでも、友だちの考えがわかったり、同じところに気づいたりできるね。」



(小学校)



「他の人の意見も参考になるね。」

「みんなで相談してから発表できるから安心だね。」



(高等学校)



「ペアトークやグループトークで同じ意見の友だちがいると、安心して全体での発表ができるね！」



「他の班の発表も楽しみだね！」



(P48)

(中学校)

指導案

(小学校・中学校・高等学校の例)

視点3 『学級集団づくり』

(1) 表出意欲を高め理解を促す

(1) つぶやきや発言を受け止め、安心して表出できるようにし、それらを取り上げて全体で共有するなど、理解を深めやすくする

【学級の様子】

- ・ 意見をもっているのに、挙手をしない子どもが多い
- ・ 全体の前では発言しない子どもがいる



【工夫のポイント】

◎ 子どもの発言は、まず受容

* 挙手をしなくても自由に発言できる雰囲気づくりをする

* 子どもの発言は、肯定的に受け止める

◎ 友だちやグループの意見の共有化

* 子どもの発言を板書したり、他の子どもに問いかけたりして共有する

* 少人数グループの意見交換から、全体でのグループ発表につなげる

* 発表した意見を他の子どもへ問いかけるなどで、考えを深めていく



(高等学校)



「なるほど！ いい意見だね！」

「その言葉から考えられることは？」



「あーなるほど。〇〇という言葉もあるかな。」



「Cグループの発表をします。」



「△△△はどう？」



「私はこう思うよ！」



「そうだね、Aグループの結果と似ているね。」

「Bグループの結果とのつながりはあるかな？」

(小学校)

「自分のグループの結果と似ているな。」



(小学校・高等学校の例)

視点3 『学級集団づくり』

(2)活動への参加を促す

(7)他者評価や自己評価の場面を設けるなどで、取組が認められることにより、意欲を持続しやすくする

【学級の様子】

- ・個性が認められにくく、自分はダメだと思ってしまう子どもがいる



【工夫のポイント】



◎多様な活動の設定

- *「どうがんばるか」、今からすぐにできる具体的な目標を考えさせる
- *お互いにふりかえり認め合うことで、自己肯定感の向上を図る

◎授業中の発言を肯定

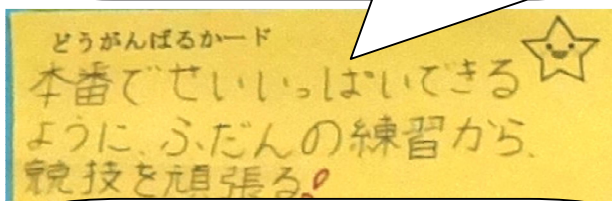
- *自発的に発言できる雰囲気を作る



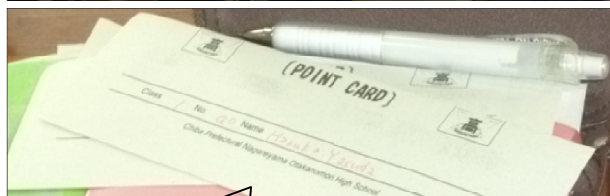
「何を・いつから・どのくらいできるか考えて、カードに書いたよ。」
「よーし、がんばるぞ！」



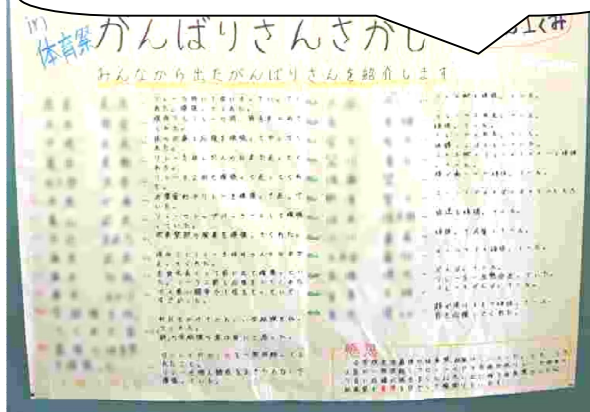
「ポイントカードの活用は、生徒たちのやる気を引き出してくれました。」



「毎日、先生やクラスのみんなど、がんばったことを認め合ったよ。」



(高等学校)



(中学校)



「発言するたびにポイントカードがもらえるよ。」



「発言が苦手な私は、宿題の他に課題に取り組んだら、もらえたよ。」

「みんなががんばったことをまとめたら、新発見もあったね！」



(中学校・高等学校の例)

視点3 『学級集団づくり』

(2)活動への参加を促す

(7)他者評価や自己評価の場面を設けるなどで、取組が認められることにより、意欲を持続しやすくする

【学級の様子】

- ・自信がなく、活動に取り組みなかつたり集中できなかったりする
- ・友だちの活動に目が向きにくい



【工夫のポイント】



- ◎活動に対して、自分で評価、先生や友だちが評価
 - *今日の活動について「目標・評価シート」に記入して振り返り、それに対して教師が評価する（学習）
 - *目標に対して、友だちと一緒に評価する
- ◎友だちの様子ができるような隊形の工夫
 - *円の隊形に並びやすいように、白線をひく

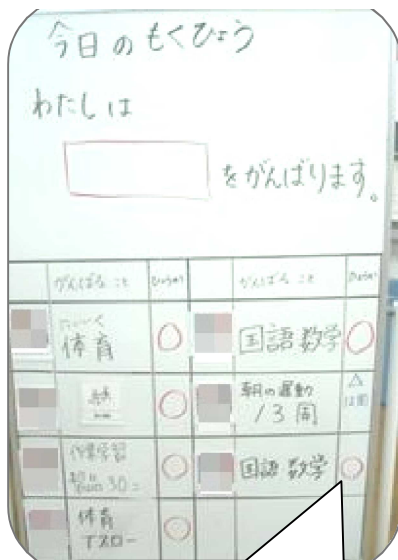


「自分で今日の目標を決めて朝の会で発表します。」



「毎回、自分で目標を決めて、がんばるようになったよ。」

(中学部：日常生活の指導)



「目標を達成できたかどうか、帰りの会で友だちと一緒に考え、○や△をつけるよ。」



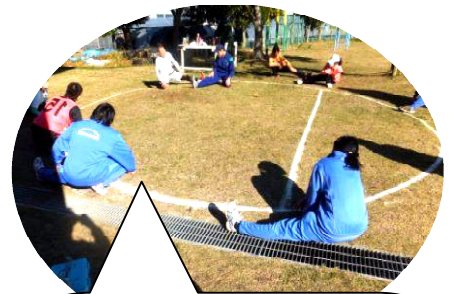
(高等部：作業学習)

日付	年 月 日
やること	織り
目標	10分以内で完成させる
自己評価	今日は力加減が調子よくできたので満足です。明日はもっと早く仕上げたいと思います。
指導者より	以前に比べて力加減が上手になりました。今日は力加減が調子よくできたので満足です。明日はもっと早く仕上げたいと思います。

「先生が、毎回コメントを書いたから、励みになったよ。」



(高等部：体育)



「白い線の所で体操すればいいんだな。」

「円だから、友だちの動きがよく見えるよ。」



(特別支援学校の例)

視点3 『学級集団づくり』

(2)活動への参加を促す

(1)得意なことなどを生かした活動や役割を果たす場面を設けるなどで、主体的に取り組みやすくする

【学級の様子】

・取り組む子どもが一部に偏っている



【工夫のポイント】



◎一人一人の特徴をできるだけ生かした係活動

*具体的に取り組みやすい係活動を決める

*できるだけ子どもの特徴等をふまえて、係分担をする

◎各自の役割を互いに確認できる掲示

*学級・学年の子どもや教員が、役割を確認できるように掲示する

「1組から6組までを一覧にして、廊下に掲示しています。学年の教員全てが、一人一人に対して、称賛や促しの言葉をかけることができます。」



1学年部会総会：各部会仕事分担名簿

※先頭責任者（複数で担当しよう、複数記名がない場合は責任を持って班長・副班長がサポートすること）

仕事内容	1組	2組	3組	4組	5組	6組
教科連絡黒板	背面黒板の時間割記入・教科係に記入させる					
黒板管理	黒板の整理整頓					
授業の号令	私語防止の号令					
授業中の呼びかけ	授業開始終了時					
学習準備（忘れ物）点検	毎朝の忘れ物チェック表を黒板に記入					
置き物チェック	毎週置き物チェックをし、名簿に記入					
テスト前学習計画	テスト前に分科し学習計画を作成					
先生連絡	授業が滞りだしたら呼びかけてもたす					
朝読書	よみかけ、図書委員と共に朝で読					
班長	班全般のまとめ・指示・責任					
副班長	班長補佐・欠席者の手帳配					
学習係	学習準備・授業態度など気配					
整理整頓係	机やゴミ、プリントなどの気配					
集配係	前の人へ必ず通るように配					
給食係	給食が来直に行き渡るように気					
清掃係	清掃の指揮・指示・作業などま					

「『係活動の名称』と『具体的な仕事内容』を記載します。」

「ここには、一人一人の名前を記載します。」

「一人一役だから、僕がやらないとだめなんだ。」

(中学校)

「子どものやる気を引き出すため、係の内容や名称は、グループで検討させています。」



(小学校)

「自分たちで決めた係だからやる気になるよ。」

「班の仲間で協力してやるんだよ。」



(小学校・中学校の例)

視点3 『学級集団づくり』

(2)活動への参加を促す

(㊦)学習や学級のルールを明確に示すなどで、安心して活動に取り組みやすくする

【学級の様子】

・ルールやマナーが守れない子どもがいる



【工夫のポイント】

◎学習のルールを確認

* 「話を聞く」「注目する」「話してもよい」などのルールを視覚的に示すことで確認を容易にする

* 学習の流れを中断しないように、「目」「耳」「口」などの絵カードを黒板に貼り、今やるべきことに注目できるようにする



算数学習 (4・5・6年生) **話し合いのしかた**

○ すずんで 発表しましょう。

【発表する人】
○ わかりやすく発表しましょう。
「説明します。」
「〇〇になりました。」 ← 輪流から話す。
「〇〇をして (〇〇を使って) 考えました。」
「まず・・・」 ← 順序よく、理由もいれて話す。
「次に・・・」
「だから、答えは〇〇になりました。」
「質問はありますか。」

【聞く人】
「はい。」
○ 自分の考えと 比べながら聞きましょう。
「**にているところは どこかな?**
ちがうところは どこかな?」
○ 質問やつけたしを しましょう。
「どうして〇〇になるのですか。」
「他にありますか。」 「つけたしませう。」

よいところを見つけよう。 → よい考えは 取り入れましょう。

㊦ だれでも使える ㊦ 簡単にできる
㊦ いつでも使える (数が変わっても) ㊦ 正確にできる
㊦ 速くできる

話し合ったことを まとめましょう。

「例えば、算数ではこのように具体的に発表の仕方などを掲示しています。」



「今は静かに聞かなきゃ。」



「絵カードを見て自分で、どうすればいいかわかるよ。」

(小学校)

(小学校)

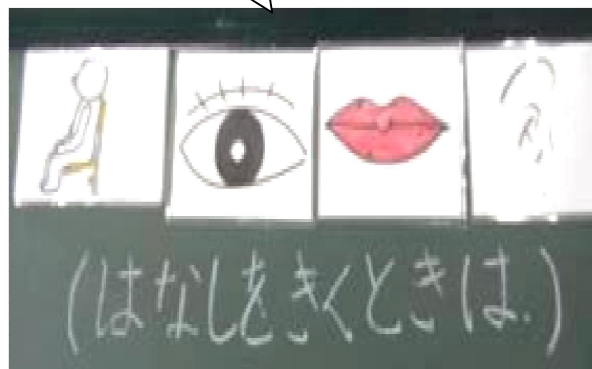
授業中にやってはいけないこと

- ①先生の指導に従わない。
- ②教科書・ノート・筆記用具がない。
- ③制服をきちんと着ていない。
- ④授業に遅れる、授業を抜け出す。
- ⑤勝手に席を移動する、立ち歩く。
- ⑥トイレに行く。
- ⑦おしゃべりや大声を出す。
- ⑧化粧やピアスをしている。
- ⑨携帯電話・ゲーム機をいじっている。
- ⑩イヤホンで音楽を聴いている。
- ⑪マンガを読んでいる。
- ⑫飲み物等が机の上に置いてある。
- ⑬ガム・アメ等が口に入っている。
- ⑭寝ている。

(高等学校)



「教室の前に掲示して、生徒が自分で確認できるようにしています。」



(小学校・高等学校の例)

視点3 『学級集団づくり』

(2)活動への参加を促す

- (1)学習や学級のルールを明確に示すなどで、安心して活動に取り組みやすくする

【学級の様子】

- ・友だちに何か言われることを気にして、授業で発表しようとしないうちの子もいる
- ・発表の音が小さかったり、早口になってしまったりする



【工夫のポイント】



- ◎話し合いや発表の際のルールを決めて掲示
 - *話し合い活動がスムーズに進むように、毎時間確認する
- ◎発表する時の適切な音量や話す速度を視覚的に提示

「安心して発表できるようになったから、友だちの発表もしっかり聞けるようになったよ。」



発表の際のルール

“発表する”

- 手をあげて指名これに言う
- 発表の終わりに「終わりです」「以上です」と言う

“聞く”

- メモをとりながら聞く
- どしゃぶで発表をささげらない

“認め合う”

- 発表が終わったら拍手をする
- 発表者のよかったところやまねたいと思ふことをつたえる



「お弁当作りで話し合ったよ。」
「みんなの意見でおかすが決まったよ。」



(中学部)

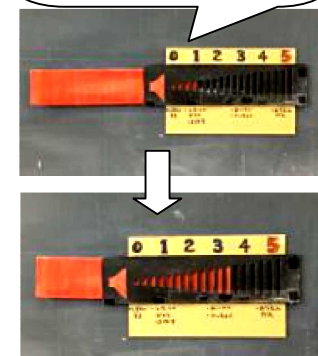
「この表を見ながら発表の練習をしたよ。」



「電車が好きだから、わかりやすいよ。発表する時は各駅停車のスピードだよ。」



「赤い部分で音量を示します。持ち運びできます。」



「会議のルールは、他の授業や会議でも使っています。」

(高等部)

お弁当会議のルール

- ①手をあげて指名これから意見を言う。
- ②友だちの意見を否定しない。
- ③決まったことはメモ取る。
- ④前回それぞれ考えたお弁当からつくるものをえらぶ。

はな はや
～話す速さのルール～

- 発表するときの速さは・・・**特急電車**です。
各駅停車のように、ゆっくり、はっきり話します。
- 友だちと話するときの速さは・・・**快速電車**です。
快速電車のよう、発表のときはより、少し早く話します。
- 思いで話すときの速さは・・・**特急電車**です。
特急電車のよう、早口で話します。
- 早口言葉を使うときの速さは・・・**新幹線**です。
新幹線のよう、超スピードで話します。

(小学部)
(特別支援学校の例)

視点3 『学級集団づくり』

(3) 人間関係づくりを促す

(ア) 互いを認め合う取組(グループワーク等)で、自己理解や他者理解を深めやすくする

【学級の様子】

・お互いの良さよりも悪い部分ばかり探して、批判する言葉が多くなっている



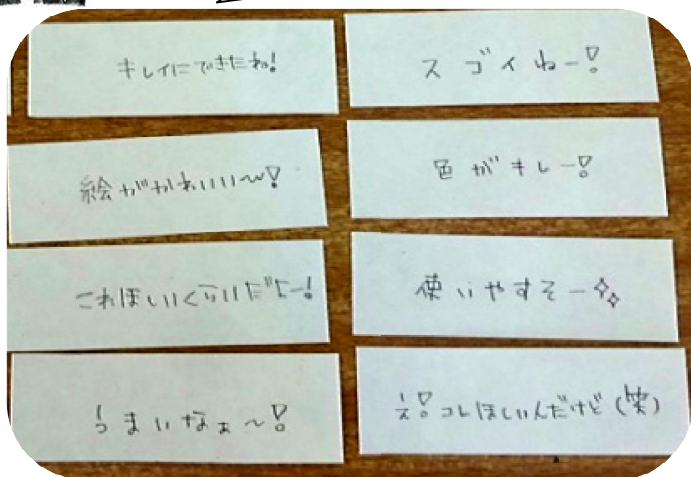
【工夫のポイント】

◎ 作品を介しての気持ちの表出と相互評価

- * 「言われたい言葉」を探することで、友だちの気持ちを考えた「言いたい言葉」を伝えられるようにする
- * 自分が「言われたい言葉」を探することで、多様な見方に気付かせる
- * 相互評価を行い、自分の作品の良さに気づくと共に、友だちとのつながりを広げる



「自分の作品について、友だちから言われたい言葉をカードにかきましよう。」



「自分は、こんな言葉を書いてもらいたいな。」
「一枚一つの言葉って書きやすい。」

「お互いの作品を相互評価するよ。」
「いいところみつけるぞ!」



「どんな意見も OK なんだよね。」



「友だちには厳しく言ってみたい?」



「友だちにはすごいと書いてもらいたいよね。」



(中学校の例)

視点3 『学級集団づくり』

(3) 人間関係づくりを促す

(1) 適切なタイミングで称賛や感謝の言葉をかけたり、子ども同士で認め合ったりするなどで、自己肯定感や所属意識を高めやすくする

【学級の様子】

- ・ 友だちの批判やあげあし取りが多い
- ・ いじめや否定的な雰囲気や悩む子どもがいる



【工夫のポイント】



◎ 良いこと探し

- * 良いことを毎日3つ、一週間探す
- * みんなでフィードバックして気づきを促す

◎ 良さを引き出す言葉かけによる温かい雰囲気づくり

- * 思いやりや協力などを認めることにより、学級全体に広げる



「友だちがまた学校に来られてよかったよね。心配してくれていたんだね。ありがとう。」

★ 友だちを思う優しさを認め、思いやりを学級全体に広げていきます。



「素晴らしい！！ミニ競技は、みんな協力してがんばったんだね。」

★ ミニ競技という言葉を取り上げ、友だちとのかかわりの良さや大切さをふりかえり、気づかせます。

「3つのよいこと」みつけよう！

今日あった「よいこと」を3つかきましょう。

なんでそれが自分にとってよいことなの？簡単に理由もかきます。

- 1 風邪で休んでいた友達が今日は学校に来られた。
- 2 プールの水が気持ち良かった。
- 3 台風で登校が遅いから、ラッキー！！



「先生のコメント通り、友だちが休むことを、私心配していたんだ。」



「そうだ。〇〇さんが書いているように、休んでいた友だちが来られて本当に良かったよね。」

「3つのよいこと」みつけよう！

今日あった「よいこと」を3つかきましょう。

なんでそれが自分にとってよいことなの？簡単に理由もかきます。

- 1 プール日和だった。
- 2 プールの水温が良かった。
- 3 競って勝った。(水泳のミニ競技)最高!



「そうか、協力したから勝てたんだ。」
「みんなとがんばって良かった。」



「明日は、〇〇さんのグループのように私達も協力してがんばるぞ！」

(中学校の例)